

島田正治

新しい年を迎えての一月十四日、メキシコ市から直行便、バンクーバー経由の成田行きで、十五時間の空の旅で久々に日本に戻ってきた。約一年ぶりのことだ。空港を出たとき冷やりとする空気が身にしみた。メキシコは冬がないからこの寒さはない。暖かい国から急に寒い国に戻ると、この気候になれるのに少し時間がかかる。昨年帰国の折はひどい風邪にやられ、ひどいめにあったので、ことしは注意している。飛行機は座席が窓辺で、あと二席が空いていて、ゆっくり横になって過した。別に何をするわけでもない。ぼんやりと機上から下界を眺める。じっと十五時間も座席にいるのも孤独なものだが、ひとり黙って過すのもよい。

バンクーバーから日本人らしき女性が座席ひとつ置いて通路側に坐った。頭を下げるがお互いに一言も話さぬから不思議に思っていると、服のポケットからちらっとパスポートを出し入れするのを見て、それは韓国の人とわかった。結局、メキシコから日本へ着くまで誰とも話すことがなかった。疲れているから話したくないということもあるのだろう。こういうことは珍しいがまあある。

一月二十二日、日帰りで京都行きをした。五月に開く京都文化博物館での個展の打ち合わせ会があり、それに出席、またメキシコ文化協会の新年会にも参加させてもらった。

わたしは、とにかく朝一番に家を出て、五時半の始発に乗ろうというのである。あたりはまだまっ暗で、こんな早い時刻に電車に乗るなどというのは初めてのことだ。駅の改札口はあけっ放しで駅員の姿とてない。切符を買ってホームで待った。ほんとうに電車は来るのだろうか。予定の三、四分前になると乗客がけっこう階段を登ってくる。その数がかなりある。二十名ぐらいになった。夜の仕事を終えて帰宅する人、また、一番の電車で働きに行く人、さまざまなのだろう。横浜線に乗った。かなりの人が乗っていて、混んでいた。新横浜駅から新幹線で京都へ。東京六時の始発とあって、座席はほぼ埋まっていた。早朝とあって、車内販売の弁当がよく売れていた。

名古屋を過ぎると積雪のあとが見られ、黒と白の車窓からの風景は墨絵の世界でもあった。京都駅に着いたのが午前八時半、タクシーで実家へ行った。あまりの朝の早いのに驚いた弟夫婦だったが朝食にパンと牛乳をごちそうになった。隣家の兄夫婦の家へ行く。少し話して、こんど展覧会を計画している三条高倉の京都文化博物館の会場を見に行く。四室みな使うので、かなりのスペースがある。壁面があるので、相当大きい作品を用意しなければならない。総出品作、大中小入れて八十点ぐらいとなるう。

夕方、四時から文化協会の役員会があり、また、夜プリンスホテルで新年会があった。これは八時半ごろに終了、わたしは日帰りを予定しているので、急ぎ新幹線の京都駅へ。聞くところによると、最終は九時半だというのであわてた。とにかく切符を買ってホームにくと列車到着まであと三分、まことに綱渡りの的であった。無事に列車に乗ると、途中で降雪、列車は遅れ気味ということではたして、あと乗り継ぎの横浜線、東急電車とうまくいくだろうか。予想どおり新横浜駅にはあと三分で横浜線へ、そして電車もまた、最終三分前で乗車。その日の真夜中の十二時半に家へ着いた。今回の日帰り京都行きはまさに三分前の男といってよいだろう。ひとつまちがったら、家へは帰れなかったにちがいない。幸運だったことは事実だが、日帰りの京都行きというのもこれから考えたほうがよいが大方の意見のようだった。「あまり無理はしないこと」

・・・次号につづく